

平成25年度第1回広島市スポーツ推進審議会 会議録

I 開催日時

平成25年4月24日（水） 午後14時00分～午後15時30分

II 開催場所

広島市総合屋内プール会議室（広島市東区牛田新町一丁目8番3号）

III 出席者

1 委員 20名中17名出席

梅本委員、大澤委員、小笠委員、小野委員、梶原委員、亀田委員、木村委員、小林委員、
崎田委員、鍋島委員、東川委員、福岡委員、古川委員、本川委員、満田委員、山下委員、
山本委員

（欠席：曾根委員、中本委員、西野委員）

2 オブザーバー 3名中2名出席

宮原オブザーバー、上村オブザーバー、

（欠席：藤岡オブザーバー）

3 事務局（市）

市民局長、スポーツ振興課長、教育委員会学校教育部指導第一課主幹

IV 会議次第

1 開会

2 議事

(1) 「広島市スポーツ振興計画」の推進施策について

(2) 平成25年度スポーツ振興関係予算について

3 閉会

V 公開・非公開の別

公開

VI 傍聴者

1名

VII 会議資料

平成25年度第1回広島市スポーツ推進審議会 次第

広島市スポーツ推進審議会委員等名簿

平成25年度第1回広島市スポーツ推進審議会配席図

議事関係

議事資料1-1：「広島市スポーツ振興計画」の推進施策体系

議事資料1-2：「広島市スポーツ振興計画」に掲げた推進施策の主な取組状況について

議事資料2：平成25年度スポーツ振興関係予算

【別添資料】

- 1 総合型地域スポーツクラブ「広島市既設7クラブ」活動状況の概要
- 2 「スポーツや運動に関するアンケート」調査結果
- 3 スポーツ推進委員の活動等に係るアンケート結果
- 4 平成23年度学校体育施設開放事業利用状況（総括表）
- 5 広島市スポーツ指導者シンポジウム2012 アンケート集計
- 6 広島市スポーツ施設利用に関するアンケート調査について

Ⅷ 会議・発言の要旨

1 開会

2 議事

- (1) 「広島市スポーツ振興計画」の推進施策について
- (2) 平成25年度スポーツ振興関係予算について

〔スポーツ振興課長〕

（議事資料1-1、1-2及び議事資料2説明）

〔東川会長〕

スポーツ振興計画の進捗状況、平成24年度の主な取組状況、そして、平成25年度のスポーツ振興関係予算の2つの議事について説明をいただいた。ただ今の議事の説明について、御意見或いは御質問があればお願いしたい。

〔鍋島委員〕

スポーツ振興計画について、施策の具体的なご報告をいただいた。質問したいのは、今の時代にあった指導者というか、人材育成をどういった形でされようとしているのか。地域まちづくりとスポーツ・レクリエーションとの連携をどうやってとって行くのかなど、そこらについて質問したい。

なぜ、そういう質問をするかという、一つは厚生労働省の「健康日本21」を10年間取り組んだ結果、国民の1日の歩数が逆に少なくなっている。

「健康になるからスポーツをしよう」というのは、結果的にはスポーツ人口が減少させる結果になっているのではないか。スポーツが持つ本当の楽しさを引き出す指導者が必要ではないかというのが、その反省点にあったと思う。

言ってみれば「健康がゴールではなく、その次をどうするか」という指導者を養成していく必要があるというのが1点目。

もう1点は、文部科学省が出したスポーツ基本法の制定ではないかと思う。スポーツやレクリエーションといった新しい領域を明文化した。色々な見方があるが、空洞化してきた地域社会をどういう形で活性化していくか、スポーツが人と人との関係を保ちながらどうやって地域の活動を広げていくかというのが1点あったと思うし、もう1点は、希薄化してきている地域の間人関係をスポーツやレクリエーションを通しながらどう人と人をつないでいくか、そういう期待が今回のスポーツ基本法の背景にあったのではないかと思う。

そういう厚生労働省と文部科学省があって、当方のスポーツ振興計画というので具体的な方

向を出してきたが、その結果、厳しく技術を向上させる指導者は、それなりに我々も支援してきた。そのスポーツの楽しさとかスポーツに興味を引き出すような指導者の養成というのは今までの養成とは違ってきているという気がする。

その指導の仕方をどう考えているかということと、地域のまちづくりにスポーツをどうやって地域活性化につないでいくか、もしあれば、大きいことをいい過ぎたかもわからないがご回答をいただきたい。

〔スポーツ振興課長〕

まさに、先程報告したように、委員の皆様にも色々お知恵やご提案をいただきたいと思っている。計画をつくり、2カ年が終わったところで、今のような取り組みの結果を報告させていただいた。色々なアンケートの調査結果を後ほど見ていただきたいと申したが、例えば、別添資料2の「スポーツや運動に関するアンケート調査」でのアンケート調査結果で言えば、健康づくりや体力づくりが専らの取組であったり、運動不足を感じるであるとか気晴らしやストレスを感じるという声も出ているし、皆さんがそれぞれの思いを持ってやっておられるのが一つ。

また、指導者といっても競技力の向上では、別添資料5にあるような「スポーツ指導者シンポジウム」でのアンケート調査結果で言えば、横との連携が必要だとか競技種別にかかわらず色々な連携や色々なお話を聞きたいというのがあった。

こういったアンケート結果が出ているが、鍋島委員が言われたようなことを踏まえて、振興計画に資する取組があれば、逆にご提案をいただきたいと思っている。

今直ちにそういった視点で何かをするということになれば、私が知る限りではスポーツ推進委員の研究大会等でそういった課題のもとに発表等があったように記憶している。ただ単に今のスポーツの指導だけでなく、そういう意味も含めて地域に還元するということも必要ではないかというお話だったと思う。今ここで何をするかどうするかは、またご提案いただければと思っている。

〔東川会長〕

ただ今、スポーツ振興課長から説明があったが、指導者と言えばスポーツ推進委員が関連するし、地域との絡みということでいけば学区体育団体或いは総合型スポーツクラブが関連するかと思う。鍋島委員の発言に対し、小野委員、古川委員からあればお願いしたい。

〔小野委員〕

私たちも色々勉強をして各学区に持ち帰り、皆さんに指導する場を持ちたいと思って活動しているが、なかなか参加していただく人数が少ない。

この間、県の研究大会の時に中区の広瀬小学校と本川小学校が推進校になったというお知らせをいただいたが、私たちが子どもたちの体育やニュースポーツのお手伝いをしたいとお願いをしても、受け入れてくれる学校とそうでない学校があるのも確かだ。そこをもう少し、老人会や町内会等に認知度を広めて、中に入ってニュースポーツや体力向上の運動などを指導することができたらと思っている。

〔東川会長〕

振興計画の中では、学区体育団体の活性化というのが課題として上がったと思う。平成24年度、或いは今年度あたりの取り組みのようなものがあったら教えていただきたい。

〔古川委員〕

ご存じのように学区の体育協会は、現在、広島市で137団体(学区)ある。地域の皆さんを対象にスポーツ活動を実施しているのが我々の活動である。当初は活気があって勢いがあったが、アジア大会を過ぎた頃から徐々に元気がなくなってきている。

というのは、少子高齢化の影響もあるのかもしれない。だから、学区体育協会が、地域活動や町内会活動など、スポーツ以外の戦力としてあてにされるような状況になっている。祭りがあれば御輿をかついだりするのも体育協会、とんど祭りの時も竹を切ったりするのも体育協会ということで、スポーツ活動を通じて地域まちづくりをやっていこうという形に徐々になってきた。

いいか悪いかは別として、これが現実であり、そうしないと地域から背中を向けられてしまう。それと同時に我々体育協会がやる活動は、グラウンドゴルフやゲートボールばかりじゃないかという意見も無きにしも非ず。そういう活動に出て来るのは高齢者の方が多く、しかもグラウンドゴルフというのは非常に手っ取り早いということもあり、気軽に参加できるが、本当のスポーツの意味からいうと、それぞれの区で区民スポーツ大会を実施している。この区民スポーツ大会は、広島市のスポーツ・レクリエーションフェスティバルに通じている。

現状では地域のまちづくりの戦力になっているということ、それと同時に、スポーツ推進委員は、体育指導委員から名前が変わったというだけではなく、名前が変わったことによって積極性が出てきたように思う。小野会長の方針もあるかと思うが、それだけ頑張っただけであれば我々も非常に力強く思う。我々学区体育協会というのは裾野であり非常に多くの人数である。ということで目的を違わないように地域活動に地域のスポーツ交流に頑張っただけという思いを持っているので、よろしくお願ひしたい。

〔東川会長〕

突然のご指名で申し訳なかったが、今の話をお聞きすると、鍋島委員からあったようなことも、学区体育協会もただスポーツだけじゃなくて、地域に根ざし開かれたというか、生活に密着したところはかなり目が向いているのも一つの方向性かなと思って聞かせていただいた。

〔本川委員〕

鍋島委員からあったように、私も常に頭にあることだが、いかに指導者を育成していくかということ、特に、一回頭の中をクリアしないといけないという感じはする。

というのは、スポーツと言えば競技という結びつきがあって、イメージとしてスポーツは何かの競技、例えばドッジボールをやることなど、子どもたちの身体を動かしていくところや遊びから発展していったものだというところに視点が置かれていないのではないかと思う。

スポーツ少年団の中でも複合というのがある。例えばサイクリングや登山をしたり。今では野球やサッカー、バレーや剣道、柔道に特化されてきており、ここをもう一回クリアして、レクリエーションなど、遊びと身体を動かすことを結びつけたものを推進していく指導者を育成していくことが必要ではないかと思う。

我々スポーツ少年団も指導者としての資格や認定員という資格等で指導しているが、指導者は全てその競技に向いてしまう。そういうことではなく、本当に身体を動かすということの楽しさを知ってもらうことを指導できる指導者を育成していくべきではないかと思う。今の競技種目の指導者にそれをやれと言ってもなかなかうまくならないというのが、私が長いことやってきた経験である。

そういう私もスポーツ少年団の指導もしている。ただ、長い子ども達の指導の中で今年の3月に初めてやったことがある。私の種目は柔道だが、私の柔道クラブの子どもたちが運動遊びを地域でサポートするというのでやった。平素動かしていない筋肉を使ったり動いたりする中で遊び的なことをまじえながら身体を動かしてやろうと、要は運動遊びができない子どもがたくさんいるということで、今回初めてやったが7人の参加があった。こういうものをどんどん展開し推進していく指導者がやはり必要ではないかと強く感じた。競技種目もまず身体をつくり動きをつくってからでないとその競技の指導はできないというのが今の現状だろうと思う。

そういうことをいかに指導していくか、子どもたちが興味をもつか、そういった指導者をつくっていくことに目を向ける必要があるのではないかとと思う。

〔東川会長〕

実践を伴う貴重なご意見であった。私も3年ほど小学生を指導したが、陸上はほとんどやらない。運動をずっとやるよりは、思いっきり遊ぶことの面白さをどこかで経験させることが大切だと思う。

かつてはそういうこともよく言われていたが、目の前にあるそれぞれの種目をどうするかということで展開が難しくなってきたということがある。それをまずはやらなくてはいけなという現実的な取り組みもできているので、是非、これは私のお願いであるが、広島市からそういう考え方や取組がリードできたら素晴らしいことになると感じながら聞かせていただいた。

今後の指導者養成講習会や或いはトップス関係の方からも多大なご尽力をいただいているが、内容というものをどういうもので構成していくかに関わっていくかなど、可能性のあるお話を伺えたと思っている。今の話に関連してでも結構である。或いはそれ以外のことでも構わない。何かあったらお願いしたい。

〔梶原委員〕

折角この場へ出てきたので、我が協会のことをPRさせていただこうと思い発言の機会をいただいた。私どもは先程市のスポーツ振興課長から説明があったように、指定管理者として市が整備した37のスポーツ施設を管理運営している団体である。年間で延べ210万人の利用をいただいている。プールやトレーニングルーム、体育室を自由に利用する方、私どもが開催しているスポーツ教室を受講される方、団体が主催される大会や競技スクールに参加される方、そういった様々な形で利用をいただいている。

先程鍋島委員がおっしゃった特定のスポーツではなく、遊びだとか身体を動かすことについては、これまでは全くと言っていいが、ほとんどやってきておらず、今後、もう少し基礎的で身体を動かすことのおもしろさを感じられるようなことについて、私どもの施設を使った事業ができないかなということ为先程のご意見をお聞きしながら感じたところであり、さっそく研究をしてみたいと思っている。

それと、スポーツ振興課長からの報告にも何度か名前が出てきたように、私どもは、地域スポーツ振興コーディネーターを各区に2名配置しており、ソフト面で地域スポーツを活発に振興していく担当の体育の専門家がいる。彼らは、学区体協の皆さんとかスポーツ推進委員の皆さんと一緒に様々な体育活動のご支援をさせていただいているが、今のままの事業でいいのかという課題認識を持っている。

松井市長が言うておられるように各区の特色がさらに延びて、市民の皆さんが主体的に様々な活動にかかわれるようなお手伝いをするような取り組みがないのかと思っているところで、

内部で検討をしようと考えている。

そういったところへ皆さんもお気づきの点があればご意見として寄せていただきたいと思っているので、どうぞよろしくお願ひしたい。

〔満田委員〕

高齢者が非常に多くなり、今、私たちは健康づくりで色々なことに取り組んでいる。高齢者のスポーツと言えばグラウンドゴルフ、ペタンク、ゲートボールだが、あれは老人クラブの年寄りのスポーツだという感じで、もっと他のことをやってみようじゃないかということを考えている。

今進めているのは、「健康ウォーキング」である。私たちも学区の中でやっているが、非常に人気がある。その年齢にあった距離を考えながら大きなイベントとして「健康ウォーキング」をやってもらえると素晴らしいのではないかなと今考えた。

私も学区の方で27日から、週に1回ずつ1年間かけて健康ウォーキングをしようと思っている。一昨年、みずほ教育福祉財団からの助成により、モデルケースとして1年間やった。非常に人気があり、人数もたくさん集まった。老人クラブ連合会も公益財団法人となり、老人クラブというクラブの壁を取り払い、例えば一人暮らしの人たちにも出してもらおうなど、誰でもいいから参加してもらおうということで取り組んでいる。

だから、できるものならスポーツセンターの職員さん達にお手伝いや色々な分野での協力をいただきながら、市全体として、難しかったら区単位で「健康ウォーキング」ができないものかと思っている。私達も27日から学区だけでやるので、もしできたらそういうふうな取り組みはできないかと思っている。

〔東川会長〕

そういう一つ一つの取組は、冒頭で鍋島委員の方からあったような、団地の高齢化、そういうところへの取組もあるのかと思う。

〔山下委員〕

私からお願いしたいのが、目標年度の数値目標であるが、できれば何年に1回か、途中経過を現在こういう状況だと、例えば、基本方針1の「地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興」については、到達目標は65パーセントになっているが、現在の状況を出していただければ、足りないところは皆さんで相談しながら改善もできると思う。

それと、先ほど振興計画について推進施策の24年度分をご説明いただいたが、その実績により、到達目標に対しどのような感触をお持ちか。この2点についてよろしくお願ひしたい。

〔スポーツ振興課長〕

まず、数値目標であるが、手元にあるので24年度末の数字を申し上げたい。

最初に、基本方針1の「週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を3人に2人(65%)」ということであるが、24年度末で48.7%となっている。

基本方針2の「新体力テストの結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を50%以上」ということであるが、これについては、小・中・高全体合わせて63.2%となっている。

基本方針3の「国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手の割合を50%以上」

ということであるが、こちらが48.0%となっている。

基本方針4の「トップス広島に加盟するチームの試合を年1回以上会場で観戦した市民の割合を50%以上」ということであるが、こちらが37.1%となっている。

それともう1点、この計画を策定しその後の感触ということであるが、個人的な感触を述べさせていただくが、計画そのものの策定に実は私が携わっておらず、計画ができた後にこの課長の職を拝命した。計画の中身を見ると、これまでも取り組んできていることも合わせて、今後あるべき姿も含めた取組がかなり幅広く計画で盛り込まれている。

そういった意味で新たな視点や新たな取組ということについて、先ほどもご報告させていただいたが、平成24年度には、色々なアンケート調査とか聞き取り調査とか、できることをやってみて、それを今日、別添資料1から別添資料6まで、皆様の方にストレートにお示しさせていただいた。こういったものを見ていただきながら、正直、どんなことを進めたらいいかというご提案をいただければ非常に助かる。まさにそれが、私の正直な感触である。

なかなか、一広島市の行政だけで解決できるものではなくて、先ほども鍋島委員の発言が幅広く皆様の発言につながったように、本当に委員の皆様方のお知恵をいただいて、できることから取り組んでいきたいというのが正直な感触である。どちらかと言うと、こういう検討会会議を設けたということばかりの報告が多分にあり、これと言って皆さんに目に見えるものがお示しできていない。

そういう意味では、色々のご提案やお知恵をいただいて、それを予算に繁栄するものは予算に繁栄する、皆さんで協力してやっていくことはやっていく、そういった率直な気持ちでいるので、ご意見ご提案があればお受けさせていただきたい。これが率直な感想である。

〔東川会長〕

今、山下委員の方からご質問があったが、私も何もなければお聞きしようと思っていたところである。

体力関係についてはかなり上がってきているなど、基本方針1については「65%が週1回以上」というのは、これはあまり変わっていないか、ちょっと上がったくらいかなという感じがする。

最後のトップス広島関係の「年1回以上会場で観戦」は、少し上がってきているのではないかと思う。是非、これは、毎回1年1年示していただきたい。

もう一つ私からのお願いであるが、それぞれの事業を実施していただいて、例えば、継続している事業あたりについては昨年度と比べてどうなのかと、それによって非常に芳しくなければ事業の見直しをしていただくこともあろうかと思う。その辺のデータの示し方をさせていただくと皆さん方も話がしやすいのではないかと思った。

〔市民局長〕

今、山下委員、それから東川会長からあったお話だが、皆さんにこのスポーツ振興計画の策定に御協力をいただいて、10年間の計画ということで、4つのいわゆる基本方針の中で、それぞれ目標数値を定めている。この10年間でこの目標を達成させていくにあたり、先程ご指摘があったように、毎年毎年一体どこまで達成できているのか、このことについては事務局の方から当然きちんと今後報告させていただきたいと思っている。

それに合わせて、その数値を踏まえて、一応事務局としてどういう評価をするのか、先ほど会長からもあったように色々なことをやっているが、その回数を昨年度、或いは一昨年度と比

較してどういう傾向になっているのか、それでいい方向にいつてるのか、或いはまだ、ここの部分は努力が足りないのか、ということを知りやすく皆さんにお示しして、色々なご審議に活用いただければいいかなと思っているの、そのように今後させていただきたい。

〔崎田委員〕

少し言い方が難しいのだが、スポーツ指導者の体罰が最近話題になったので、市の方でそういう取組を調査するとか、報告するということがあるのかどうかについてききたい。

また、私も親なので子どもをスポーツ指導者に預ける際に、体罰がないという情報を公開することがあるのかないのかも含めて教えてもらいたい。

〔教育委員会指導第一課主幹〕

学校における部活動や授業の中での体罰については、文部科学省から調査依頼があり、今、教育委員会から学校に調査を行って取りまとめている最中である。もし、その中に上がってくれば対応することになると思う。

〔東川会長〕

学校教育以外のところで何か対応があるか。

〔スポーツ振興課長〕

現在、スポーツ協会で取組について検討されている。

〔梶原委員〕

昨年来、高校野球部の体罰、それと競技スポーツの中での暴力行為、そういったことについては、既に日本体育協会から根絶に関するガイドライン、さらには会長名での通知、文部科学大臣からの通知、また県体育協会からの通知が出ている。

これまでは、広島市スポーツ協会では市の協会に加盟している競技団体と学区の様々な団体があるが、日本体育協会の通知は競技団体を通じて、各県・市の競技団体の各組織に対して通知していて、そういった体罰・暴力行為の調査も学校以外のものはそういった競技団体が種目別にヒアリングを実施している。

スポーツ協会では、これまでそういった日本体育協会とか県体育協会の通知により、スポーツ協会に加盟している団体へ通達するぐらいのことしか対応していなかったが、スポーツ協会は市の体育協会としての性格も持っているの、できることはすべきということで、県とか日本体育協会のガイドラインを参考にしながらも、市スポーツ協会独自のガイドラインをこの3月に制定して理事会・評議員会にも報告し、この4月に各競技団体や地域団体の方へ会長名の通知として出した。ただこれは通知なので、あたりまえのことが書いてあるので、これで根絶するかどうかは、やはりひとりひとりの意識の中に確実に浸透しないと表れないと思う。

スポーツ協会ではもうひとつ、昨年は市の委託事業として、ジュニアスポーツを指導している方に今後の参考になるような体験を話してもらおうとか、議論を行うシンポジウムをやったが、今年の8月にもスポーツ指導者シンポジウムを予定しており、今年は「スポーツ現場における体罰・暴力根絶に向けてのシンポジウム」というタイトルでやってみようと考えている。

まだ、例えば講演会方式、ディスカッション方式といったシンポジウムの形や誰をメインにすえて行うかということは煮詰まっていない。8月へ向けできるだけ効果があるような内容に

できればと思っている。是非、皆さんや競技団体にもお願いしようと思っているが、皆さんの前で報告いただく適任者の方を推薦いただくなり、情報をお知らせいただければと考えている。また情報として皆さんに届けるのでよろしくお願ひしたい。

〔東川会長〕

スポーツ少年団の方で何かあるか。

〔本川委員〕

スポーツ少年団も、梶原委員からあったようにスポーツ協会の中の一組織であるから、特に子ども達への指導という点では、各競技から本部委員が出ており、この本部委員会で周知徹底していく。また、6月に行う指導者大会でも皆さんに周知徹底したり意見を吸い上げていくということである。ただ、実態がどうあるかという調査をするところまでは考えていない。

〔鍋島委員〕

スポーツセンターの施設利用料について、7月から、今まで減免されていた65歳以上の人がいくらか支払うことになっているが、高齢者のスポーツ施設の利用率は高く、特にスポーツジムなどの結果では高齢者の利用率が高くなっている。

高齢者がスポーツを楽しむことは、健康になり医療費がどんどん下がっていくということで、双方メリットがあったと思う。そういう背景の中から時代が変化している訳だから受益者負担に切り替えていこうということもすごくわかる。それで、私は反対とかではなく、世の中に合う形になるのはよいことだと思うが、結果としてスポーツセンターの利用減ということが出ないような形で対処する必要があると思う。

民間スポーツクラブがたくさん出てきて、今までは女性が中心だったのが、最近高齢者と子どもがすごく増えている。高齢者はひと月に1万円出すと毎日行ける。毎日行く人は1日300円である。民間のスポーツクラブと公的な施設とは競合はできないと思うが、施設が持っている器具や種目の問題とかで費用的に見劣りするようになるとすごく厳しくなっていくのではないかと思う。そういう面ではスポーツセンターに魅力をプラスした形で利用料をとっていくというしくみを作る必要があると思う。そして7月からスタートするということとなると広報が必要と思うが、マイナスの広報でなくてスポーツセンターが変わるというようなことも考えながらプラスの広報をしてもらえればと思う。

〔市民局長〕

昨年度まで私が財政局におり、この公共施設の高齢者減免制度を今の時代だからもう見直したらどうかということを経会にも提案し、最終的には議会にも納得してもらい行った訳であるが、その理由は、実はこの制度は昭和49年に始めており、最初はわずか3施設で、その目的は高齢者の社会参加の促進と健康の増進のためということであった。

ただ、当時広島市の高齢化率は人口に占める割合が5%であり、高齢者の方を減免して現役世代で支えても十分支えられる体力があった。ところが施設が増えていって今は60施設になり、高齢化率が既に20%を超えているという形になった。そうすると4人の現役世代で1人の高齢者の方を支えていくという状況になり、現役世代の負担が大きい、税金の投入も大きい、一方で子どもでも大人料金の約半額の料金をとっている状況となってきた。

そういう中で、高齢者の健康増進や社会参加の促進という目的は全く失われた訳ではないので、そこと受益者負担とのバランスを考えて、高齢者の方々にも子ども料金と同額を負担いただくということとした。

当然、我々も高齢者の利用が減るのではないかという懸念を抱き、実際20の政令市で調べたら全施設を減免して無料にしている政令市は一つもなく、逆に全く減免していない新潟市によれば、高齢者の利用は決して少なくないことがわかった。

要するに高齢者の方が時間的には一番余裕があり、特にウイークデーの利用は高齢者が主体であり、周りの府中町、廿日市市でもほとんどが減免をしていない状況であった。また議会では、議員は地元の声をきいていたが、高齢者の中にも「払っていい」という意見の方もかなりあり、一方でやっぱり「払うとしんどい」という両方の意見があったが、最終的には議会もこれ位の負担なら何とかいただけるのではということなので今回予算が通ったということである。

また、広報については、7月から実施なのでしっかり広報していきたいと思っている。

〔東川会長〕

7月からということなので、次の会議にはその辺の状況も少しは聞けるのではないかと思います。是非プラスになるような取組をお願いしたい。

〔小林委員〕

小学生体育連盟であるが、先ほど言われた小学生のスポーツが固定化しているというのがあると思う。これは、競技によっては大会が多くて、毎週、試合あるいは練習試合等でなかなか他の競技を経験したくてもできないというのが現実にはあると思う。そういった他の競技の経験がない子ども達に対して経験をさせてやろうというのが、市の教育委員会を通してやっているトップス等のDスポーツなどであるが、そういったことを経験することが子ども達には非常によいのではないかと思います。これは、こういった審議会を経て行われているいい面ではないかと思います。

それから大学生の活用である。今、私の関係している競技では、修道大学、市立大学、安田大学、広島大学の学生が手伝いに来てくれている。それらが今度は教員となってがんばってくれていると思う。これもこの審議会を経て進んだいい事例であると感じている。

〔東川会長〕

皆様から貴重な意見をいただいた。

先ほども話があったが、スポーツ振興計画の推進施策に関する取組等について、どのようなことでも結構ということなので、8月末までに意見や提案を事務局に提出するようお願いする。

3 閉会